

氏名	押野 修司	部署	作業療法学科	職名	准教授
研究分野	発達障害、身体教育、動物介在療法				
学位	経済学士、修士（リハビリテーション）				
学歴	1987年明治大学政治経済学部経済学科、1991年専門学校社会医学技術学院作業療法学科、2003年筑波大学大学院教育研究科修士課程、2017年首都大学東京大学院人間健康研究科博士後期課程単位取得満期退学				
経歴	1999年埼玉県立大学保健医療福祉学部助手、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	埼玉県作業療法士会（理事）、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会（理事）、動物介在教育・療学会（理事）、日本作業療法士協会、日本リハビリテーション連携科学学会、一般社団法人日本COG-TR学会				

【2020年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌 雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし					
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称		研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	該当なし					
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	発達期作業療法学	○	15	WebClassで資料提示と小テストと疾患別作業療法では、遠隔授業でのグループ発表を実施し、期末テストを遠隔で実施した。		
2	生活環境技術学		4	遠隔授業でのグループ発表とし、対面および遠隔授業で実施した。グループワークの時間および、中間発表会を実施し、進捗状況を把握した。発表時は学生相互評価を導入し、コンテスト形式で投票も実施した。		
3	小児保健看護学（健康開発学科）		2	遠隔授業で実施した。BOXを使用し、講義資料提示と疾患別の動画視聴を実施した。		
(2) 演習						
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	臨床作業療法演習		4.5	対面授業で実施した。ADL指導（更衣）のデモンストレーションにおいて、患者役を行った。OSCEの1ブースを担当した。		
2	生活環境技術学演習		3	対面授業で実施した。iPad、Windows10のアクセシビリティ機能について、実機を用いて演習を行った。		
3	卒業研究ゼミナール	○	8	遠隔又は対面で実施した。卒業研究の進捗管理を促すため、3年次の12月に計画発表会、翌年1月末までに研究計画書の提出を促した。		
4	作業療法情報管理論	○	8	対面授業で実施した。1コマを講義と演習に分け、講義では実際に使用されている書式を見せ、演習では動画の観察記録を毎回コメントを付けて返却した。		
(3) 実習						
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		

1	基礎作業学実習	○	15	全て遠隔授業にて実施した。家庭でも実施可能な工芸を自由選択し、教材も立替払を導入した。個人作業では、時間のはじめと終わりに本日取り組むこと、その結果を発表してもらった。また個人作業だけでなく、全員が同じ種目に取り組む集団プログラムや、「話題提供」という、テーマ自由の発表を持ち回りでを行い、学生間の交流を図った。
2	作業分析学実習		4.5	遠隔と対面授業を組み合わせ実施した。道具が少なくで完成度が高い和紙工芸「マルチホルダー」の作成と活動分析を課題とした。奇数偶数の2グループに対し、機会が平等になるように対面1回、遠隔授業2回実施した。
3	発達期作業療法学実習		8	子ども、保護者との関わり方を教員が実施している状況をヘッドカメラと通常のビデオで動画撮影し、学生にStreamにて提示し、観察記録を記載させ、コメントした。
4	IPW実習		2020.10.5~8	遠隔授業にて、模擬事例のケアプラン作成過程を支援した。付箋を用いたチーム活動の際に、Miroというツールを導入し、円滑なグループワークを支援した。
5	臨地体験実習		2021.2.22~3.12	遠隔学内実習の学生1名、現地臨地実習の学生1名を担当した。遠隔学内実習のメンバーを1日のみ大学に集め、自分で計画した検査実技の練習会に学生の参加を促し、定期的な遠隔面談を実施した。現地臨地実習の学生の間訪問では、実習施設が面会制限があるとのことで、遠隔による中間訪問を実施した。
6	臨地実習Ⅱ		1期 2020.6.1~7.17 2期 2020.7.27~9.18	遠隔学内実習(精神機能領域)にて1期3名、2期3名を担当した。定期的な遠隔ミーティングを開催し、学生の学習状況の把握を実施した。学習が遅れた学生に対しては、電話、zoomにてフォローアップを実施した。
(4) 論文指導				
	対象		期間	主指導・副指導の別及び指導人数
1	卒業論文		2020.4~2021.2	主指導 7名 副指導 2名
(5) その他				
	名称		期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	該当なし			
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称		主催	講演、研修、公開講座等のテーマ
1	該当なし			
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期
1	一般社団法人 埼玉県作業療法士会		令和2年度厚生労働省指定第3回臨床実習指導者講習会(埼玉県講習会)運営委員	2021.1.30~31
2	筑波大学		特別支援学校教員資格認定支援肢体不自由教育専門委員	2020.4~2020.11
3	一般社団法人 日本作業療法士協会		事例報告登録制度 一般事例A審査委員	2019.9~2021.8
4	一般社団法人 日本作業療法士協会		日本作業療法学会 演題審査委員	2020.4~2021.3
5	一般社団法人 日本作業療法士協会		学術誌「作業療法」編集委員会 第二査読者	2019.4~2021.3
6	一般社団法人 埼玉県作業療法士会		理事、学術部長	2019.6~2021.6
7	一般社団法人 埼玉県作業療法士会		学術誌「埼玉作業療法研究」編集委員	2020.4~2021.3
8	一般社団法人 埼玉県作業療法士会		第30回埼玉県作業療法学会 実行委員	2020.4~2021.6
9	日本リハビリテーション連携科学学会		学術誌「リハビリテーション連携科学」査読委員	2020.4~2021.3
10	特定非営利活動法人 動物介在教育・療法学会		理事、人材育成事業検討委員	2020.4~2022.3
11	特定非営利活動法人 動物介在教育・療法学会		学術誌編集委員	2020.4~2022.3
12	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会		学術誌査読委員	2020.4~2021.3
12	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会		理事、会計委員長	2020.4~2021.3
13	埼玉コグトレ研究会		アドバイザー	2019.11~2021.3

(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	東武よみうり新聞	リレーコラム【県立大発！耳より健康情報】第39回「お手玉でストレス解消」執筆	2020.8
(4) その他			
	項目	相手方等	内容
1	該当なし		
5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	学科等における委員会等	卒業研究発表会（計画発表、最終発表） 運営	2020.4~2021.3
2	学生支援	学年担任（4年次）	2020.4~2021.3
3	全学的委員会及びセンター業務等	IPW総合課程 遠隔実習担当	2020.4~2021.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			